

氏名	青柳 暁子
授与した学位	博士
専門分野の名称	博士(保健学)
学位授与番号	甲第 5061 号
学位授与の日付	平成 26 年 9 月 30 日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	認知症高齢者のアクティビティケアに対する看護職・介護職の評価基準の類型化
論文審査委員	谷垣 静子 教授、松岡 順治 教授、近藤 真紀子 准教授

学位論文内容の要旨

本研究では看護職・介護職が重要と認識するアクティビティケアの評価基準を類型化し、その特性を明らかにすることを目的とした。

中国地方 5 県の特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の看護主任及び介護主任に認知症高齢者に対するアクティビティケアの評価基準に関する主観的な重要度について質問紙調査を実施し、657 名を分析対象とした。解析では階層的クラスター分析と多次元尺度構成法(ALSCAL)を併用した。

クラスターは 平均値の高い順に 1「快・安楽の状態」(4.48)、2「自発性」(4.23)、3「緊張状態の消失」(3.95)、4「他者との交流」(3.48)の 4 つに分類された。2 次元モデルにおいてはストレス値 0.113、決定係数 RSQ 0.948 で良好な適合度が示された。次元 1『複雑性』では、単純な表現から複雑な行為を表すクラスターが平均値の高い順に布置され、より単純な行為が重視されていた。次元 2『開放性』では、中央付近とその下方にあるクラスター 1 と 2 の平均値が高く、医療的な問題解決や高次の社会的な開放性よりも、個人の快・安楽や自発性などの個別的な開放性が重視されていた。

日本老年医学会雑誌 51(3)264-270 2014

キーワード：認知症高齢者，アクティビティケア，評価基準，クラスター分析，多次元尺度構成法

論文審査の結果の要旨

本論文は、認知症高齢者のアクティビティケアに対し、介護老人保険施設で働く看護職と介護職の両者を対象に、アクティビティケアの評価基準の類型化を試みた研究である。この論文の新規性は、実践報告に留まっているアクティビティケアの評価基準を試みようとした点である。そのため、まず、文献検討においてアクティビティケアの概念をレビューし、その後、グループインタビューを用いて評価項目の内容を検討している。本研究までに段階的に着手した点は評価できる。

一方、タイトルには認知症高齢者のアクティビティケアと記載があるが、論文の内容から認知症高齢者を対象としたアクティビティケアに限られる評価基準項目なのかははっきりしない。また、認知症高齢者ケアにおけるアクティビティケアの特性が考察の中で明確ではないと思われる。

以上、課題を含みつつも、本論文は、アクティビティケアの評価指標作成の第一歩を踏み出すことができた。今後に期待できると思われる。よって、総合的に判断し、本論文が、岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程の博士号（保健学）に値するという結論に達したので報告する。